修士論文（要旨）
2012 年 1 月

# 中国人日本語学習者の語彙学習ストラテジーに関する研究

## ―日本の日本語学校の学習者を中心に―

指導　堀口純子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
210J3006
謝　霏霏

目次

**第1章　研究の背景と目的**
1.1　研究の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.2　研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

**第2章　先行研究**
2.1　学習ストラテジーの分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2.2　語彙学習ストラテジーに関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2.3　学習環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2.4　自律学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

**第3章　調査概要と分析枠組み**
3.1　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3.2　学習者への半構造化 FUI の分析枠組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

**第4章　調査Ⅰの結果と分析**
4.1　協力者の基本情報に関する結果と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4.2　語彙学習ストラテジーと自律学習に関する結果と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4.3　学習環境に関する結果と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

**第5章　調査Ⅱの結果と分析**
5.1　調査Ⅱの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
5.2　調査Ⅱの分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
5.3　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

**第6章　調査Ⅲの結果と分析**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

**第7章　総合的考察**
7.1　語彙学習ストラテジー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
7.2　学習環境と自律学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

**第8章　まとめと今後の課題**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87

**謝辞**
**参考文献**
**参考 URL**
**資料（別冊）**

## 要旨

多くの中国人学習者は日本語の学習を目標の一つとして、日本に留学し、日本語の能力を高めてから、さらに専門学校、大学、あるいは大学院に進学する。稿者もそのような目的を持って学習した。しかし、日本語学校で学習していた時、周囲の中国人学習者が日本語語彙学習について、いろいろな問題に阻まれ、思ったような成果が出せないでいるということに気づいた。本研究は日本の日本語学校に在籍している中国人日本語学習者が一体どのように語彙学習をしているのか、どのような語彙学習ストラテジーを使っているのか、そして、日本にいるという学習環境が彼らの語彙学習にどのような影響を与えているのかを明らかにするため、以下のような3つの調査を行った。

日本の日本語学校に在籍している30名の中国人日本語学習者を対象として、質問紙調査をし、その中の10名に色つきカードによる調査とFUI調査を行った。質問紙調査（調査Ⅰ）は主に語彙学習ストラテジー、自律学習と学習環境などの3つの内容で構成されている。色つきカードによる調査（調査Ⅱ）では主に学習者の産出語彙を調査した。さらに、学習者へのフォローアップインタビュー（調査Ⅲ）は調査Ⅰの3つの内容を詳しく調査するためであり、調査Ⅱの産出語彙と学習環境との相互関係を明らかにするための調査である。

本研究を通して明らかになったことは、まず、協力者は様々な自分なりの語彙学習ストラテジーを使っているが、「書く、読む、暗記する」ストラテジーより、「耳で覚える（聴解）」、「目で覚える（視覚）」、「口頭で言う（話す）」ストラテジーが多く使用されていたことである。特に「日本語学校の先生やアルバイト先の日本人母語話者に聞いたりする」などのような学習環境づくりの人的、社会的リソースを利用した語彙学習ストラテジーを活用していた。しかし、調査Ⅱの結果、協力者が語彙産出については、協力者が中国語と間違えたり、日本語をしっかり覚えていないなどの問題が現れた。これらの問題が起こった原因としては、根本的な原因は恐らく協力者の語彙学習の重要性への認識が不足していることだろうと思われる。日本語学校は日本語をしっかり勉強する場所である。学習者は、その目的を忘れてはいけないと思われる。学習者はこの点について、より認識すべきであり、語彙学習により工夫が必要ではないかと考える。

また、学習者は日常生活から日本語を学習していることがわかった。一方、協力者が長時間のアルバイトをしているせいで、睡眠不足などの問題が起きていることがわかった。そして、語彙学習にかける時間がない、または学習時間を減らすなどの問題もあった。重要なのは、学習者がアルバイトと学習のバランスをどのように取れば、アルバイトから語彙学習にプラスの影響を得られ、マイナスの影響を減らせるかということである。学習者が考えるべきなのは日本での充実した生活であり、どのように学習とアルバイトのバランスをうまく取り、そして自分なりの語彙学習ストラテジーを使って日本語学習を進めていくかということではないかと思う。

本研究は主に協力者が使っている語彙学習ストラテジーを中心として調査し、学習環境の役割についても少し言及したが、今後の課題としては、学習者の個別性を考慮した上で、語彙学習ストラテジーだけではなく、語彙習得について調査し、分析・考察をしていくことである。

参考文献

青木直子　2005　「自律学習」　『新版日本語教育事典』　日本語教育学会(編)　大修館書店　pp.773-775

青木直子　1998　「学習者オートノミーと教師の役割」　『分野別専門日本語教育研究会—自律学習をどう支援するか—報告書』　国際交流基金関西国際センター

オックスフォード著、宍戸 通庸・伴 紀子訳　1994　『言語学習ストラテジー—外国語教師が知っておかなければならないこと』　凡人社

海保　あづさ　2007　「大学短期留学生の自律性に関する考察」桜美林大学修士論文　P.71

カッケンブッシュ知念寛子　2008　「外来語研究の視点—日本語教育の立場から—」　『日本語教育と音声』　戸田貴子編著　くろしお出版

河合靖　1999　「外国語自律学習研究の 3 要素—動機づけ・学習スタイル・学習ストラテジー」　『言語文化部紀要』　37 号　pp.67-85

金英実　2007　「環境の違いによる語彙学習ストラテジー—中国と日本を比較して—」　桜美林大学修士論文　P.56

国立国語研究所監修　1998　『日本語教育重要用語 1000』　バベル・プレス

サイシャラト　2008　「中国語・モンゴル語バイリンガルの日本語学習—内モンゴルの日本語学習者の語彙学習を中心に—」　桜美林大学修士論文

白畑知彦・若林茂則・村野井仁　2010　「第二言語学習者の特性」　『詳説第二言語習得研究：理論から研究法まで』　研究社　P.2

竹内理　2004　「メディアの利用と第二言語習得」　小池生夫編　『第二言語習得研究の現在ーこれからの外国語教育への視点』　大修館書店

田中望・斎藤里美　1993　『日本語教育の理論と実際—学習支援システムの開発』　大修館書店 pp.44-50

中村太一　2004　「語彙の習得」　小池生夫編　『第二言語習得研究の現在ーこれからの外国語教育への視点』　大修館書店　P.133

ネーション著、吉田晴世・三根浩訳　2005　『英語教師のためのボキャブラリーラーニング』　松柏社

林さと子　2005　「「学習環境」からみた日本語教育」　『月刊言語』　34 号　pp.51-52

林さと子　2006　「第二言語習得研究から見た第二言語学習／習得の個別性」　『第二言語学習と個別性：ことばを学ぶ一人ひとりを理解する』津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編　春風社

山崎朝子・廣森友人・大須賀直子・岡本京子・児島千珠代　2005　「学習ストラテジーの分類」　大学英語教育学会学習ストラテジー研究会編著　『言語学習と学習ストラテジー：自律学習に向けた応用言語学からのアプローチ』　リーベル出版　pp.31-45

横須賀柳子　1995　「日本語の語彙における学習ストラテジー」　『日本語教育の課題』　東京堂出版　pp.219-248

李　彦娜　2009　「日本語教育におけるマルチメディアの活用—学生のコミュニケーション能力を育成するために」　『北陸大學紀要』　33 号　pp.161-172